

オーブン カレッジ

多くの日本企業の直面する課題が「経営の継承」である。日本企業の経営継承には二つの困難が存在する。一つは、経営者人材の発掘・育成の問題であり、もう一つは、事業を取り巻く環境の変化への対応である。その中に名古屋(愛知県)の企業に固有の経営継承の問題としては、男子子息の県外への流出と製造業の中小企業が多いことが挙げられる。

名古屋では、従来から、大学に進学する男性は東京や関西に流出し、そのまま首都圏や関西の企業に就職するのに対して、女性は名古屋

経営の継承と女性

の素材メーカー、工作機械や精密機械メーカーなどが集積している反面で、電機・電子産業やそれに派生する電気通信やインターネット、それを活用したサービス業の集積が少なく、IoT(すべてのものがインターネットにつながる)による世界的なイノベーションの波に乗り遅れている。デジタル革命、EV(電気自動車)化、自動運転、シェア(所有から使用へ)など、新たなビジネスチャンスも生まれているが、それを活かした新産業の創出にも遅れをとっている。

名古屋には、数多くの伝統企業も存在しているが、インターネットやスマートフォンによる消費者行動の変化のなかで、経営継承と経営革新が同時に求められる。

名古屋には、数多くの伝統企業も存在しているが、インターネットやスマートフォンによる消費者行動の変化のなかで、経営継承と経営革新が同時に求められる。

(1) 企業家精神のある女性が自ら、あるいは共同

創業者として新規事業を起

業する。

売れ残りのアパレル商品の

リセール(再販)を行う

FINEの加藤ゆかり社長

や「カレーの吉番屋」を夫

の徳二氏とともに創業した

宗次直美氏がこのケースで

ある。

(2) 女子子息への経営

継承

安城自動車学校(はちど

り)の石原慧子社長は長子

ではない(兄と弟が存在)

が、企業への勤務を経て父

の会社に入社し、父にも認

められて経営継承し、経営

者(社長)となった。

(3) 妻や女性親族への

継承

「世界のやまちゃん」

(エスワイフード)の山本

久美社長は、教員を経て創

業者の山本重雄氏と結婚し

専業主婦となったが、重雄

氏の急死によってその経営

を継承し、新たな事業分野

にも挑戦し、経営革新に挑

戦している。

今回は、名古屋の企業で

製造業での能力発揮 役割認識と愛着が鍵

古屋にとどまる傾向があつた。

愛知県は、自動車産業を中心として、それを支える部品加工企業や鉄鋼・金属



名古屋大学大学院経営学博士後期課程単位取得後退学。1953年生まれ。

角田 隆太郎

つのだ・りゅうたろう マーケティング戦略論。神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得後退学。1953年生まれ。

められている。そのような変革の波に対して、経営革新を行う経営人材が不足しているなかで、注目されるのが女性経営者である。しかし帝国データバンクの調査で、2021年4月時点での女性社長比率は、「中部」が21年連続で全国でも最も低い。

女性への経営継承には、つぎのようなパターンがある。

今回は、名古屋の企業で経営継承が課題となっていること、その経営人材として女性に注目することを提言したが、名古屋に多い製造業において女性経営者が能力を発揮することが可能かということが問題となるかもしれない。しかし東大阪や東京・大田区などの中小製造業の集積地では、娘が経営継承した例が少なくない。熟練技能はなくても、親の事業を子供の時から見て、その社会での役割を認識し愛着を持つことが継承の鍵となる。